

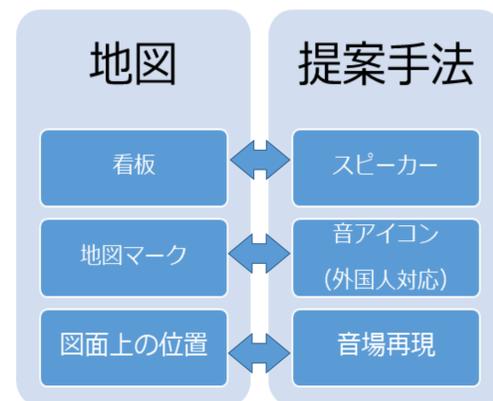
# 街が聞こえるナビゲーションと ストリートサウンド

岩岡 龍之介, Hisham Elser, 真柴 雄一,  
川本 雅之, 善甫 啓一 (筑波大学)

## 提案の背景

障害の有無によらず、街中での経済、社会活動が自由に行えることが望ましい。音のIoTセンシング、および音のAR技術を用い、街中の音を收音し、音場のストリートビューおよびナビゲーションによって視覚障害者が目的地へ向かうことが可能となる。

とりわけつくば市には日本で唯一の視覚、聴覚障害の専門の筑波技術大があり、筑波大にも視覚障害学生が在籍している。提案する新技術へのニーズと科学の町を持ち合わせるつくばでの社会実装を目指す。

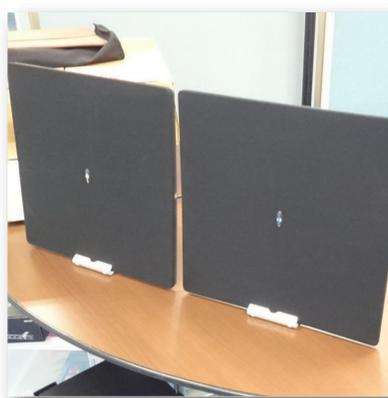


## トライアル概要

### ショッピングモールなどにおける地図情報の聞こえるサイネージの検討



大型ショッピングモールにおける  
デジタルサイネージマップの聴覚バージョンの設置



ラボ内における誘導実験  
の様子 (2018年1月)

- 入口にショッピングモール内の地図情報を聞くことが出来るサイネージを設置し、その有効性の検証を行う。またそれぞれの場所の音場をストリートビューの用に移動をする前に聞くことが出来ることを有する。
- なお被験者が壁に激突、転倒する恐れがあるので誘導員が常に寄りそう。

## 期待される効果・実現する未来社会

- ストリートサウンドによるナビゲーション  
IoTセンシングで街中の音をクラウドに收音し、AR技術によって音場のストリートビューおよび、ナビゲーションの実現。
- 特区を生かした先進的な福祉の町へ  
多くの視覚障害留学生及び外国籍の視覚障害研究者もおり、このような背景を踏まえてつくば市を世界的な福祉の町のモデルにし、世界に発信できるようなサンプルを目指す。
- 物理的な制約条件からの解放  
高度にサイバー空間と接続された社会とは、誰もが身体的なDisabilityに捕らわれない社会生活をおくれるようになる。

